

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370103974		
法人名	有限会社 コミュニティ		
事業所名	グループホーム もろびと		
所在地	岡山県岡山市南区箕島2900-1		
自己評価作成日	平成25年 3月 18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigvosvoCd=3370103974-00&PrefCd=33&VersionCd
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成25年 3月 27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> •ADLの低下を防ぐ生活リハビリをとり入れています。 •季節に合わせた食事を提供しています。 •利用者への細かい声かけ、気配りを常にしています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>岡山市箕島、妹尾地域にあり、2号線バイパスより南に入った住宅地に立地している。県道児島線に程近く中心地からのアクセスも良い位置となっている。事業所は少し山上がったところにあり、自然豊かで緑にも囲まれている。敷地内に畑や広場があり、利用者が野菜を作ったり、花を植えたり、桜の花や新緑、紅葉も楽しむ事ができる。季節によっては野外でバーベキューを行い、利用者も楽しみにしている。地域のお祭りへの参加や妹尾中学校の生徒達とのふれあいの機会も多く、地域とのつながりも親密になっている。1ユニットで少人数ということもあり、利用者も職員もほのぼのとアットホームな雰囲気でも過ごしている。庭には家族による飾りがおいてあり、ソファーには利用者の手作りカバーをかけている。食事は三食とも職員による手作りで、温かくおいしい食事を心がけており、利用者も満足されている様子が見られた。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域である行事には、積極的に参加している。	「個性の尊重」「生きがいの追究」の理念に基づき、その人その人を大切にし、日々の介護を実践している。唱和等はあえてしていないが、壁に掲示し、折に触れて読んでもらうことで、職員それぞれに考えてもらっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域である行事を通じて交流している。	妹尾、箕島地域との交流が盛んである。お祭りに参加したり、妹尾中学校の生徒によるふれあいの機会があり利用者も喜んでいる。民生委員や町内会長との交流もある。地域包括支援センターの協力により、2か月に1回は施設同志の交流があり情報交換している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域である行事の際、相談コーナーを設けたりして支援の方法を活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	面会などの際に意見を聞いたりしている。	3か月に1回、開催している。地域包括支援センター、町内会長、民生委員等が参加している。家族の参加は今のところ、あまりない。会議で話し合った内容については報告や説明をしている。	2か月1回開催できるようにして欲しいと思います。内容を事業報告だけでなく勉強会的な要素を取り入れて興味を持ってもらえるようにしてみてもうかがいます。家族が面会時に閲覧したり、職員同士で経過を見ながら検討したりするためにも議事録を整備して頂くことを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ケア推進会議などに参加し、実情を聞いた話したりしている。	市の介護保険課の方との関係は良好であり、質問や問い合わせなどには適切に対応してもらっている。研修の案内等も受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の安全上非代替性がない場合以外は行わない取り組みをしている。	利用者の安全確保の為、玄関は施錠をしている。夜間はベットの柵をする方もいるが、本人や家族には説明し、了解をえている。職員への教育も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士声をかけ合い、注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要が現状ではない為行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を読んでいただき、納印としていただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価で家族アンケートと郵送し、結果を反映させている。	家族の面会が少なく意見を聞く機会があまりない。家族に電話等で連絡を行っているが、利用者との関わりが少なく、家族からの意見や希望を言ってくれる方が少ないのが現状である。	家族へ積極的に案内を出してはどうか。行事の案内だけでなく「父の日」「母の日」のイベントを企画したり、普段の様子の写真を送ってみたりする事で、日頃の利用者の様子がわかって事業所を身近に感じる事ができるのではないのでしょうか。検討して頂くことを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等で意見を聞いたりしている。	月に1回はミーティングを実施し意見交換をしたり、申し送りノートを利用して利用者の事や日常の業務について随時話し合いをしている。悩みや相談等も主任が聞き、アドバイスをしている。親睦会等も実施して職員同士のコミュニケーションの機会を持つようにしている。	必要に応じて随時話し合うという方法もいい面がありますが、職員同士の意見交換や研修の報告など時間を設定してはいかがでしょうか。また、会議録を作成し、参加できなかった人も情報が共有できるよう期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	外部の方を招き、面接を行い、不安や悩みを聞く機会を設けた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会を設け、参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	妹尾、箕島地区のグループホームの職員同士が、交流しサービスの向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の生活歴や好み、行動をよく見、家族と連携しながら関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談時によくお話を聞くように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前より、話を聞くように努めます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昼食を一緒に食べたり、入浴は一人一人入っていただいたり、一人一人大切に努力をしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際、家族の思いなどを伺ったりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事に参加して馴染みの人に会ったりする機会を設けています。	友人や知人が施設に会いに来ることもある。家族の希望で自宅へ行く方もおられる。馴染みの美容院へ行ったり、自宅の庭を見たり、有償ボランティアを活用し、馴染みの場所への外出等を実施している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングで過ごしていただく際、声かけしたりして、支え合える関係をサポートしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要があれば、応じています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個室なので、個別に対応しています。	日々の生活の中でコミュニケーションを図り、本人の希望や要望等を聞き出している。将棋や碁の相手をしたり、女性の希望者にはメイクやネイルをしたりするなど、それぞれの利用者が喜ぶような援助を心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時に家族や本人から伺っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり生活リズムが異なるので、個別に対応しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフミーティングや面会、電話などで今後の話し合いをしています。	個々の利用者に担当の職員を決めており、本人の希望や要望を聞くようにしている。ミーティングにて職員間で話し合いを行い、プランに反映させるようにしている。家族からの意見や要望は少ないが、職員が細かいところまで意見を出し合い、利用者にあったプランになるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフミーティングや連絡ノートなどに記入、見直しを活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できることは、しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事を通じて、豊かな暮らしが楽しめるようにサポートしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	面接の際に希望をお聞きしています。	家族の希望により入居前のかかりつけ医を継続する場合もあるが、ほとんどの方が協力医に変更をしている。往診が月に2回、歯科医の口腔ケアは週1回実施している。他科受診について必要であれば支援している。夜間や緊急時はかかりつけ医が24時間対応してくれる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期月2回と随時訪問看護サービスを利用し、利用者の生活を支えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中や退院後に主治医と話をしたりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人と家族が希望された場合、支援させていただきます。	過去に家族の希望によって看取り支援を実施した経験はある。今後も自然な状態で本人や家族の希望があれば医療機関を相談をしながら実施も考えている。家族の気持ちを最優先し、意思を確認しながら支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救護法の研修は、全職員が受講しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署と連携し、避難訓練を行っています。	年に1回実施している。夜間の想定で消防署の指示のもと避難訓練を実施している。町内から要請があつて近所の住民の避難場所にもなっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティングなどで、よく話し合いをしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴準備や外出など好みを聞いたりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間や、昼寝など本人のペースに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ネイルサロンの方に来てもらったり、洋服を選んだりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食のメニュー作りを一緒に考えたり、片付けを手伝っていただいている。	3食ともに職員による手作りとなっている。利用者の好みを取り入れたり、畑で収穫した野菜を使ったりしている。手作りおやつも多い。利用者の重度化もあり、調理への参加は難しくなっているが、干し柿作りなど参加するのを楽しみにしている方もおられる。外食は年に1回、初詣の時に寿司を食べに行っている。	食事は3食手作りで味も薄味で食べやすい内容になっています。職員も利用者のペースに合わせてゆっくりと食事をしており、ゆったりと落ち着いた時間になっています。家庭料理にプラスアルファという気持ちで調理に取り組まれており、すばらしいと感じました。これからも継続を期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や、好みに合わせて支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、週に一度衛生士により口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツの対象者でも日中はトイレ誘導をし、排泄のリズムを整えています。	利用者それぞれの排泄チェック表をつけている。声かけによるトイレ誘導を行い、昼間はできるだけ布パンツで過ごしてもらっている。声かけにも注意をはらい、プライバシーの尊重を心がけている。夜間は居室でポータブルトイレを利用してもらう方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	5分づきの玄米、オリゴ糖のファイバーを飲んだり下剤に頼らない工夫をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日に対応した入浴の順番にしたりしている。	基本的に週4回、入浴支援をしている。午前中に実施しているが、本人の体調をみながら臨機応変に対応している。入浴剤を使用したり、マンツーマンでゆっくりとコミュニケーションを図り、楽しむことができる支援を心がけている。	入浴回数が週4回と多く、利用者の満足が得られる入浴を実施されています。限られた設備の中で、重度化の進む利用者に対し、職員が工夫をして安全に心地よく入浴ができるように取り組まれていました。これからも継続して頂けるように期待しています。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	座っていただく場所や、休む時間など、個別に対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ミーティング等や連絡帳で服薬確認を促しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩や外出の支援をしたりしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の希望があれば対応いたします。	全員での外出は年に1回、初詣に行き、お寿司を食べに行くのが恒例となっている。地元の公園でのお花見や地域行事に参加もしている。ホームの周りは自然環境に恵まれており、天気の良い日には散歩をして季節感を味わう事も出来る。パン屋の移動販売があり、買い物を楽しみにされている方もおられる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば対応します。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたり、手紙の支援も必要であれば対応します。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて壁を飾ったり、家族との写真を貼ったりしています。	温度、湿度の管理により感染症の予防など衛生的な環境作りを心がけている。妹尾公民館に展示した利用者の手作り作品をリビングに飾っており微笑ましく、季節感のあるアットホームな雰囲気になっている。日当たりも良く明るいリビングで居心地もよい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分が居心地のよい場所、リビングや居室で過ごせます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が持ち込んだ家具や布団、好みの椅子などを使っています。	ベットは備え付けで用意し、家具や布団などは本人の希望や思いを優先して自宅で使い慣れたものを持ってきてもらっている。仏壇やお位牌も持ってくることもできる。個人の空間ということで自由に使ってもらっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日中、夜間ともに電灯をつけたり、張り紙をつけたりしています。		